

学ぶシンポジウム in 飯舘

4/16

あるものさぎの時代。
助け合う心の循環をどう作るかが大事

菅野村長



浩司氏

将来の経済的な不安が無いことで
『幸福』と感じるのではないか

デンマークの大使館文化担当参事官
ベンツ・リンドブラッド氏



▲デンマークの地域づくりについて話すリンドブラッド氏

デンマークはすぐれた福祉国家として知られています。デンマークでは誰もが原則として無料で病気の治療を受けることができ、入院も、出産を含めて一切お金がかかりません。

また、学校の学費は大学に至るまで無料のため、すべての子供に平等な教育の機会が与えられています。高齢者福祉や年金制度も充実していますし、失業手当や低所得者への住宅手当など、さまざまな助成金制度も整っています。では、どのようにして、充実した社会福祉を支えているのでしょうか。

村では、木材を無駄なく利用するため、「いたてホーム」にデンマーク製のチップボイラーを設けたことをきっかけに、世界一幸せな国の地域づくりに学ぶ、村づくりに学ぶ「シンポジウム in 飯舘（長谷川長喜実行委員長）を開催しました。

シンポジウムでは、

はじめにデンマークの大使館文化担当参事官ベンツ・リンドブラッド氏が「デンマークの地域づくり」、日本大学生物資源科学部の糸長浩司教授が「持続可能なコミュニティづくりを学ぶ」と題して基調講演を行いました。

その後、(有)アースキッズ代表取締役小澤祥司氏をコーディネーターとして、リンドブラッド氏、糸長教授と菅野村長が全体討議を



▲いたてホームに導入されたチップボイラー

行いました。

糸長教授が、11基のチップボイラーで電力を自給自足し、島内の暖房を賄うサムソン島（人口約4000人）での取組みや、1972年のオイルショック当時、わずか2%だったエネルギー自給率が、1997年には自給率100%になったことなどを紹介しました。

リンドブラッド氏は「30年前と比べ、デンマーク

世界一幸せな国の地域づくりに



未来に向けて、揺るがないビジョンを持つことが大切

(有)アースキッズ代表取締役小澤祥司氏



持続可能な地域づくりのためには、『まδει』の理念を生かすべき

日本大学生物資源科学部
糸長浩司教授

また、菅野村長は「小さな村だが、エネルギーの循環と一緒に、人も心も循環させていきたい。最終的に

ました。

「高い税金(※)だと思うが、国民は無駄とは思っていない。税金が高くて、生活

退職して、蓄えがなくても、生きていける。年金や福祉

制度も整っており、医療費はほとんどかからない。将来の経済的な不安が無いこと

で『幸福』と感ずるのではないか」と、幸福と感ずるキーワードについて語りました。

デンマークは世界でもトップレベルの高い課税水準を持っており消費税率は25%にも上ることについて、リンドブラッド氏は、

「電力使用量は同じ。エネルギー使用と経済成長はイコールではない。エネルギーを使わなくても経済成長はできる」と、省エネが進んでいることを説明しました。



▲幸せな地域づくりについて学んだシンポジウム

は助け合う心の循環をどう作るかが大事」と訴えました。県内外から出席した約120人が、デンマークの先進的な取り組みや幸せと感ずられる地域づくりについて

て耳を傾けていました。また、この日「いいたてホーム」に設置されたチップボイラーや増床された4期棟の内覧式もあわせて行われました。

※ 個人収入では、所得税が最高59%の課税、消費税率は25% (デンマーク大使館ホームページ参考)